

# プシケおおたニュース

2022年 8月号 NO.43

社会福祉法人 プシケおおた事務局  
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 4-4-1  
TEL : 03-5700-6352  
FAX : 03-5700-6753  
E-mail [psyche-ota@mbj.nifty.com](mailto:psyche-ota@mbj.nifty.com)  
HP <http://www.koujiya-center.com/>

## ◆法人の理念◆

「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」

～私たち（プシケおおた）は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、  
当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します～

## ◆運営方針◆ 職員行動指針：

- ① 当事者中心
- ② 自己決定
- ③ 権利擁護
- ④ 啓発
- ⑤ 協働
- ⑥ 創造
- ⑦ 研鑽
- ⑧ Win-Win



梶谷 阿波踊り

暑中お見舞い申し上げます。

プシケおおた 理事長 廣瀬 <sup>たつゆき</sup>達志

7月に入り変異型のコロナウイルスが再び猛威をふるう情勢になってきました。

この約2年間、プシケおおたにとってコロナ感染対策は事業の安定的な継続を進める上で最も大きな課題であり、法人組織の各事業所の隅々に至るまで日常的警戒と対応が欠かせないものでした。

プシケおおたでは策定した「BCP 事業継続計画・感染症対策編」の内容に沿って各職員が細心の注意を払って感染拡大防止に努めています。

マスク着用、手洗い、アルコール消毒、検温などを習慣化し、発熱ほかの兆候については速やかに周辺との接触を停止し、PCR検査、経過観察、医師診断を仰ぐなどの対応を行ってきました。この予防的対応では、幸いにも感染ではなかった事例・いわゆる「空振り」も多々ありました。しかし、最大の予防をもって職員や職員家族で実感染事例が数件ありましたが、規定された隔離などの早期対応で感染拡大を防ぐことが出来ました。

法人の事業の性格から対面対応は大きな意味を持ちますが、施設利用者など障害当事者の皆様へも積極的に協力をお願いし、発熱などの情報があれば電話等で速やかに通知いただくなど、最大限の対応を行ってきました。これについては、行政と連絡を取りつつ、やむなく事業中止や施設の一時的な閉鎖を決断せざるを得ないこともありましたが、感染拡大という事態を防ぐことに繋がったと判断しています。

第7波の感染拡大が懸念される現在、あらためて組織内の対応、対策を徹底して感染防止に努めていきたいと考えています。

さて、法人内では本年度より法人の在り方についての検討が本格的に始まりました。

変化を続ける社会福祉の動向を含め、持続可能な法人の事業運営を目指して、組織や財政、人事、研修福祉事業の進め方など、職員から現状に即して様々な意見を抽出しています。一定規模の組織に成長した法人を一朝一夕に変革することは幾つかの障壁がありますが、いくつかの組織が抱える課題が明らかになりつつあります。適時の改善を図りつつ、時代に適応した一定の方向性と対策を見定めていきたいと思っております。

作業は始まったばかりですが、今後障害当事者の皆様のご意向も踏まえつつ、関連する法人内外の皆様のお知恵も拝借することも多々ありそうです。今後とも皆様のご支援ご協力とともに適切なご指導、アドバイスをお願い申し上げます。



# 2021年度 事業報告

## こうじや生活支援センター・かまた地域生活支援センター

### 相談事業及び地域活動支援センター I 型事業

登録者		こうじや生活支援センター：181名      かまた生活支援センター：244名								
相談事業	基本相談(件)	こうじや	526	2,373	171	54	9	4,290	55	1,673
		かまた	205	2,646	96	20	7	3,715	57	1,913
	指定特定相談	計画相談件数:こうじや 184・かまた 221 計画作成数:こうじや135・かまた92 モニタリング件数:こうじや415・かまた 198								
	指定一般相談	地域移行件数: こうじや4・かまた 4      地域定着件数:      こうじや 5・かまた 2								
オープンスペース	開所日数: こうじや 145日・かまた 142日、      利用者数: こうじや1,762人・かまた 2,373人、 1日平均利用者数: こうじや11.5人・かまた16.7人									
行事(参加者数)	こうじやセンター祭り中止    クリスマス音楽会(zoom配信)    餅つき交流会中止 焼き芋会中止									
夕食サービス	こうじや実施中止									
生活サポート	利用者数:こうじや12人・かまた 2人、 従業時間:こうじや 406分・かまた202分									
地域交流・プログラム等	実施回数:こうじや59回・かまた 70回、 利用者数(延):こうじや220人・かまた191人									
ボランティア	実人数:こうじや2人・かまた6人、 延人数:こうじや43人・かまた 31人									
実習生受入	PSW実習生:こうじや3人・かまた1人									

#### <こうじや生活支援センター>

2021年も新型コロナウイルスの感染拡大の為、週3回の開所を余儀なくされていましたが、感染状況を見つつ、月に1日の土曜日開所を行い、音楽が流れる時間を楽しみました。また、センター内で感染者は出たものの、法人の事業継続計画の話し合いを重ねて来た事で、閉所を最小限にし、感染拡大しないように事業を継続することができました。

今年も、恒例の地域交流活動が出来ない1年でしたが、さぼーとぴあのピアサポートキックオフイベントに発表者、参加者として数名が参加をしたり、ZOOMを使って地域の福祉施設と連携を取り、簡単ではありませんでしたが一緒にクリスマス会を楽しみました。

ZOOM等を使う事で出来る活動が広がったので、今後も模索しながら、センターに来る利用者、地域の方、そして職員1人ひとりが自分らしく生活できるように、2022年は好きを生かす、隙を活かすをテーマにセンターを運営します。

#### <かまた生活支援センター>

2021年度のかまた生活支援センターは、昨年に引き続き週3日のオープンスペース開所と金曜の予約相談日を継続し、利用者が感染リスクを抑える行動が取れるように、オープンスペースに職員を配置しコロナ禍でもオープンスペースの運営と基本相談を大事に行っていました。プログラム活動なども距離をとりながら安心して参加できるもののみ実施し、利用者からの希望で、日頃の運動不足解消のために、新たに「ストレッチ」のプログラムを開始しました。

しかし8月末に職員1名の新型コロナウイルス感染が判明し、オープンスペースを10日ほど閉所する事態となり、その後オープンスペースでの食事は禁止し、新たな感染対策として決まった時間帯に利用者職員が一斉消毒および換気の徹底を行いました。

そして感染症と自然災害に対応するBCP(事業継続計画)を作成し、非常事態に合わせた職員の動線をより具体的に想定し、共通認識を図りました。また法人の在り方、センターの課題についてもPTを立ち上げ、議論を深めています。今後も議論を積み重ね、地域や利用者の声を大事にした運営を目指していきたいと思っています。



## 地域生活安定化支援事業

支援実施者延数	2569人	訪問・面接・同行など	399件	電話相談	493件
関係機関調整	1629件	個別ケア会議など	48件	ショートステイ事業	41人(87日)

地域生活安定化支援事業は、①退院することに自信を無くしている方の意欲喚起、②退院に困難を抱える方の退院支援、③退院後、地域で不安定な状況で生活されている方の地域生活支援を行う事業です。2021年度からは大田区の単独補助事業として、④ショートステイ事業(退院支援とレスパイトに利用)もグループホームから安定化に事業移管しました。加えて、給付事業として自立生活援助事業も行っています。このように、区の補助事業という利点を生かして、遠方の精神科病院に入院している方や退院の準備に時間のかかる方の支援を担当しています。なお、2021年度から目標に掲げているピアサポート活用事業は、まだ緒に就いたばかりです。2022年度は区内の他事業所などとも連携しながら、ピアサポーターの育成にも取り組んでいく予定です。

## 自立生活援助事業はるまち

訪問など	381件	同行	98件	年度末利用者	16人
------	------	----	-----	--------	-----

2年目となる自立生活援助はるまちの運営は「地域生活安定化支援事業」の中で始まりました。精神科病院の退院後、グループホーム退居後などスムーズに支援に入ることができた反面、他からもニーズが多く、すべての方の対応ができなかったということもありました。一人ひとりに向き合った支援を心掛けていきたいと考えています。

## ホームビシケ

入居者数	28人(3月末)							
2021年度退居者	14名	退居後の状況	アパートでの単身暮らし	6名	他施設	6名	入院	2名
2021年度新規入居者	13名	入居前の状況	入所施設	1名	地域から	4名	入院	8名

2021年度も新型コロナウイルスの影響が続き入退居をスムーズに進めることは難しかったです。幸いにも入居者の感染は見られませんでした。年度後半には職員やその家族のコロナ陽性が判明し、職員体制に苦慮することもありました。

入居にあたっては、体験入居の回数・日数を多く重ねることや関係機関との情報共有をこまめに行うなど、丁寧にアセスメントしていくことを心がけました。

退居にあたり入院継続となってしまう方にも面会訪問やカンファレンスへの参加を続け、退居後のサービス利用について関係機関との連携を続けました。単身生活に移行できた方については、新規不動産屋の開拓や居住支援法人の活用、自立生活援助の導入など進めることができました。

入居者のワクチン接種同行のほか、風邪症状によりPCR検査を含む受診同行が必要となるケースもありました。自室待機中の過ごし方の助言、買い物代行、他入居者や関係機関への周知、共有部分の使い分けなどの対応に追われました。また、夕食会は感染状況を見ながら各ユニットごとに中止・再開の検討をするなど、引き続き感染対策を継続しながら対応していきます。

ご本人が望む生活が実現できるよう関係機関とのチーム支援に取り組み、入院継続での退居という形を減らしていきたいが、入居者の重度化・高齢化の課題が続いています。

第三者評価の受審年度であり、今回の結果を踏まえ更なるサービスの質の向上に努めていきます。

## クッキングワーク街の駅

利用登録者数	35	1日平均通所者	10.4	平均年齢	50歳	開所日数	233
通所ペース	週1日…11名、週2日…12名、週3日…8名、週4日…4名						
配食サービス全体	実施日数	223	食数	年間	8,680	1日平均	38.9
昼食弁当		135	年間	5,833		1日平均	43.2
夕食弁当		88	年間	2,847		1日平均	32.4
作業内容	調理・配達・回収・ポスティング・洗い物など						

2021年度で事業所開設から9年目、登録者数は35名(新規利用者5名、退所者5名)となりました。2020年度に続き、コロナ禍での生活の変化により体調を崩すメンバーさんや感染の不安で休むメンバーさんも出ました。長期休みが続くメンバーさんに対しては電話や訪問での体調確認などを行いました。

配食サービスでは休止することなく作業を行えたため平均工賃が2020年度よりも伸び、年2度の賞与を支払うことが出来ました。

注文数は減少傾向にありましたが障がい者総合サポートセンターでの出張販売やおおむすび(大田区生産活動支援施設連絡会)の共同販売に参加して売り上げを維持しました。

2022年度も感染防止対策を行いながら、安心・安全に通所できる場所として取り組んでいきたいと思っています。

# 2021年度 決算報告(法人全体)

法人単位事業活動計算書  
(自)2021年 4月 1日(至)2022年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	4,070,675	2,859,610	1,211,065
	障害福祉サービス等事業収益	225,773,406	221,639,198	4,134,208
	経常経費寄附金収益	204,000	1,490,000	△ 1,286,000
	サービス活動収益計(1)	230,048,081	225,988,808	4,059,273
	費用			
	人件費	164,432,058	159,917,109	4,514,949
	事業費	6,459,656	7,282,085	△ 822,429
	事務費	55,016,307	56,366,767	△ 1,350,460
	就労支援事業費用	3,839,440	2,795,507	1,043,933
減価償却費	6,323,595	6,439,963	△ 116,368	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 3,149,690	△ 3,149,690	0	
サービス活動費用計(2)	232,921,366	229,651,741	3,269,625	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 2,873,285	△ 3,662,933	789,648	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	4,847	6,023	△ 1,176
	その他のサービス活動外収益	316,648	247,953	68,695
	サービス活動外収益計(4)	321,495	253,976	67,519
	費用			
その他のサービス活動外費用	131,380		131,380	
サービス活動外費用計(5)	131,380		131,380	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	190,115	253,976	△ 63,861	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 2,683,170	△ 3,408,957	725,787	
特別増減の部	収益			
	特別収益計(8)	0	0	0
	費用			
特別費用計(9)	0	0	0	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	0	0	0	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 2,683,170	△ 3,408,957	725,787	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	109,302,569	112,711,526	△ 3,408,957
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	106,619,399	109,302,569	△ 2,683,170
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)			
	その他の積立金積立額(16)	231,235		231,235
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	106,388,164	109,302,569	△ 2,914,405	

## 財産目録

2022年3月31日

I 資産の部		II 負債の部	
1、流動資産	116,113,319	1、流動負債	21,076,936
現金預金	95,415,517	未払金	13,054,262
未収金	20,552,246	預り金	933,855
立替金	17,444	賞与引当金	7,088,819
前払金	127,991	2、固定負債	0
仮払金	121		
2、固定資産	48,707,664		
基本財産	10,000,000		
その他の固定資産	38,707,664		
資産合計	164,820,983	負債合計	21,076,936
差引純資産			143,744,047

## 新入職員紹介



佐藤奈穂

4月1日にクッキングワーク街の駅に入職しました佐藤奈穂と申します。福祉業界は初めてで、他の職員に支えて頂きながら、日々奮闘しております。至らない点多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



腰越由布子

6月よりホーム蒲田で非常勤職員として勤務させて頂いてます、腰越由布子と申します。大田区で生まれ育ったおおたっ子なので、地域に根差した法人でのお仕事に携われることは大変光栄です。宜しくお願い致します。

## 異動職員紹介

山本利寛

プシケおおたに入職してから約10年間、なぜかずっと異動することなく、かまた生活支援センターで勤務してまいりました。慣れ親しみ過ぎた環境から移ることに少なからず戸惑いを覚えました。心機一転、新たな環境でも職務に邁進してまいる所存です。よろしくお願い致します。

有馬広祥

約6年ぶりに元の職場に戻って参りました。ホームプシケの有馬です。以前とは色々変わってしまったなあという印象ですが、障がい分野でも大きく変化していく中で、取り残されないように頑張っていきたいと思えます。

大谷拓郎

4月からかまたセンターに異動になりました大谷と申します。これまではこうじやセンターに8年間勤務しておりました。勤務先は違えど、今まで通り日々勉強しながら業務に取り組んでいきます。よろしくお願い致します。

廣野涼太

クッキングワーク街の駅からこうじや生活支援センターへ異動となりました。街の駅の皆さんと顔を合わせる機会が少なくなることに寂しさを覚えますが、こうじやセンターという新たな環境でもまた様々なご縁を大切に、精進してまいります。



## こうじや生活支援センター

### こうじや生活支援センター夏祭りが中止となりました

今夏、8/21（日）にこうじやセンター夏祭りを開催する予定でしたが、再度の新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。来年の再開を希望して、地域の皆様へメッセージを伝えていけるといいと思っています。

### きょうだい会のおしらせ

障がい当事者を兄弟姉妹に持つ方（きょうだい）が集って自分の想いや悩み、家族に対する気持ち、そしてこれから先のことを一緒に考える「きょうだい会」を立ち上げることになりました。

毎月第一週の土曜日に、こうじや生活支援センターにて開催する予定です。ご興味ある方はこうじや生活支援センターまでお問い合わせください（TEL：03-5705-0744）。

## かまた生活支援センター

### <ボランティアさんにインタビュー かまた生活支援センター>

月一回のプログラムに来てくださってる松永さんに、ボランティアのことについて聞いてみました。

～ボランティアを始められたきっかけとどのくらいの期間されていますか。

「2018年秋ごろ、かまた生活支援センターの芋煮会（地域交流事業）の時に見学して以来、月一回のボランティアをさせて頂いています。

元々港北区の精神障害者サロンのような所でボランティアをやっていました。その後、大田区に引っ越ししてきて家の近くでもボランティアができたらいいなと思っていたところ、ホームページでプシケおおたを拝見しました。

ボランティアさせて貰える機会に繋がることを期待して、見学させて頂いてから、センターの利用者さんと自分の住んでいる地域とは離れたエリアも散策できたり、利用者さんがお買い物の目線が自分とは違って、ちゃんと考えて買ったり、工夫して生活しておられる話を聞いたりする中で、刺激を貰えるんです。生活の知恵を教えていただくこともあって、恐れ多いのですがためになるなと感じています。

～利用者さんと関わる中でどんなことを感じてましたか。

月一回のボランティアで利用者さんとの距離感をどう取ったらいいか考えてましたが、自分自身を見つめ直す中で不思議なことに良い距離感でおしゃべりさせてもらっていると感じています。

私はしゃべる時に自分のことを先に言うてしまう太刀なので向こうから話すのを一呼吸待った方がいいんだろうなと思ひまして。小さい声で聞き取りづらかった時、聞き返すのは申し訳ないけど頑張って聞き返してみたりもしています。

細かいことは聞かなくてもその人がどんなことを考えておられるのかを知りたいという意識を持ちながら話しているのかもしれない。

～最後に一言お願いします

気楽に遊びに行かせてもらって感謝しています。

## 地域生活安定化支援事業

### テーマ：長引くコロナ禍で、その後、病院訪問などはどのようになっているか

地域移行支援には面接や外出同行が欠かせませんが、これまでは感染状況も対応も病院によって大きく異なっていました。感染の長期化に伴い、完全な接触禁止ではなく、Zoom などによるリモート面談に限定して許可するところも増えてきていましたが、3月に蔓延防止等重点措置が終了すると、立ち入りや面談の再開に弾みがつき出しました。それまで支援者は完全にシャットアウトされていた茨城や栃木といった遠方の病院からも支援依頼が入り、病的窃盗を繰り返す方の刑務所からの出所支援といった、これまでなかった分野の活動も始まっています。一方、昨年度からショートステイ事業が安定化の管轄になり、地域移行の追い風になることが見込まれていましたが、病院からの外出許可が下りないケースが多く、思ったほど利用は伸びませんでした。

## クッキングワーク街の駅 ❄️❄️❄️❄️❄️❄️ アジサイ散策レク ❄️❄️❄️❄️❄️❄️

クッキングワーク街の駅では6月17日に高幡不動尊にアジサイ鑑賞に行きました。

蒲田から約1時間電車に乗っての行程でしたが5名のメンバーさんが参加して散策を楽しみました。高幡不動尊についてからもアップダウンのある険しい道のりを歩きましたが、無事に帰ってくる事が出来ました。参加したメンバーさんからは「色々な種類のアジサイが見られてよかった」「疲れたけれどアジサイがきれいで楽しかった」「めったに乗らない南武線や京王線に乗れてよかった」等の感想をいただきました。



## ホームプシケ 入居者にインタビュー

今回はグループホームに入居され、今度いよいよ一人暮らしを始めるKさんにインタビューをしてみました。約3年入居されたKさんにグループホームに入居してみてどうだったか、感想を伺ってみました。

長谷川：入居した時の感想を教えてください。

Kさん：体験入居はしていたけど、最初は慣れていなくて、どう生活すればいいか分からなかった。慣れたら居心地良くなりました。入居中に印象深かったのは調子が悪くなったこと。今は笑って話しているけど、本当に大変でした。相談出来る人がいると心強いです。

長谷川：家探しもやっと終わりましたね。いかがでしたか？

Kさん：通院など用事ある中で探すのが大変でした。もうしたくないです。一人では無理でした。

長谷川：最後に一言お願いします。

Kさん：グループホーム、良かったです。入院中の自分とも変わりました。一人暮らしへの不安はありますがけどね。もう入院はしたくない、保護室にも入りたくない、その気持ちで頑張りました。

思い出話に花を咲かせながらグループホームでの生活を振り返っていました。困難な状況で「辛い」と言いつつも何とか乗り越えてきたKさんならば、一人暮らしも大丈夫だと思います。今後もグループホームのOGさんとして支援していきます。（ホームプシケ 長谷川）

## 2021 年度事業報告

2021 年度の総会の開催は、コロナ感染の状況を考慮し開催を見送りました。そのため、2021 年 7 月 12 日(月)に役員会を開催し、2020 事業報告、決算、2021 事業計画、予算を報告し、承認いただきました。2021 年度の事業としては、「ツタエルチカラ」主催の映画「不安の正体」の上映会に対する協賛を行いました。法人プシケおたへは 20 万円の寄付をいたしました。

今年度の事業活動方針と予算については、2022 年度も総会開催を見送ったため、2022 年 7 月 16 日(土)に役員会を開催し、検討いたしました。高橋代表の勇退を受け、佐々木副代表を新たな代表に迎え、新しい役員体制で執行いたします。

## 2022 年度事業方針

1. 普及啓発の映画、演劇「ツタエルチカラ」主催の一人芝居「私 精神科医」への協力、協賛をいたします。
2. 法人への寄付は昨年同様に 20 万円の寄付を実施します。

**新役員紹介** 任期＜2022年7月16日役員会より2024年6月予定第10回総会まで＞

代表；佐々木康生 副代表；高橋明紀代 幹事；道家忠男・西田房夫・山岡道夫・(法人) 小山廣子  
 会計；木津初美・中島邦枝 監事；福島禮子・古怒田幸子

2022年度予算(案) 2022年4月1日～2023年3月31日

収 入	個人会員収入(100口×2,000)	200,000	
	団体会員収入(3口×10,000)	30,000	
	カンパその他の雑収入	10,000	
	2021年度よりの繰越金	387,208	
	合 計	627,208	
支 出	法人プシケへの寄付		200,000
	総会・イベント費等		
	講演謝礼		
	茶菓代		
	その他		
	振込書用紙代		1,200
	振込料金		10,000
	郵券・送料等		10,000
	予備費		406,008
合 計		627,208	

2021年度決算(2021年4月1日～2022年3月31日)

収 入	2020年度よりの繰越金	344,506	
	個人会員会費 73名(107口)	214,000	
	団体会員収入 3団体(3口)	30,000	
	カンパその他の雑収入	11,000	
	合 計	599,506	
支 出	法人プシケへの寄付		200,000
	総会・イベント費等		
	広告協賛費(不安の正体・自主上映会)		3,220
	振込書用紙代		0
	振込料金		9,078
	郵券・送料等		0
	2022年度への繰越金		387,208
	合 計		599,506

プシケおた賛助会費を 2021 年 1 月 4 日から 2022 年 7 月 16 日までに納入して頂いた方(敬称略)

2021 年度分 個人会員：4 名

2022 年度分 団体会員：1 団体

個人会員：15 名 寄付；2 名 2000 円

♥心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひします♥

代表 佐々木康生

編集後記；



今年は梅雨明けが早く暑い日が続いたかと思ったら、曇りの日が続くなど体調管理も難しい日々が続いています。それでも今年の夏は例年よりも暑くなると予想されています。また、新型コロナウイルスの感染者も徐々に増え、収まることはまだまだ先になりそうです。今後も熱中症対策とコロナ感染防止に努めながら運営していきたいと思ひます。(吉崎)